

2-17 研究者は何ができる？

もしあなたが研究者であるなら、世界天文年の趣旨や天文学を社会に広くアピールすることの意義はよくわかりのことと思います。世界天文年は、天文学分野の学術・教育が中心ではありますが、ガリレオの功績や科学の歴史という視点では自然哲学・自然科学全般と関わりますし、さらに現代文化や芸術、博物館・民俗・国際関係・情報通信など、幅広い分野と何らかの接点があります。ここでは大学など研究機関の方が世界天文年に関わることをしたい、という場合に参考になるとと思われる行動の例をお伝えします。

ステップ1 まずはメールの署名から

研究者として発信するものの中に世界天文年を取り入れてください。

「2009年は世界天文年です。http://www.astronomy2009.jp/」と、送信する電子メールの署名欄に一行加えることはそれほど手間なくできるでしょう。一研究者として趣旨に賛同するひとことを添えれば効果的です。

ステップ2 研究室、廊下などの構内に世界天文年のポスター掲示を

大学や研究機関とは多様な分野の学生、また人々が入り出りする場です。内部の学生・教官に世界天文年を紹介することも、まず一歩と言えます。またぜひとも、教養や専門の講義の中で、学術研究と社会との関わりといった視点からも、世界天文年に触れていただきたいと思います。

ステップ3 世界天文年にちなんで何かを公開する

大学の見学会や、研究所公開などの際には、世界天文年と関連づけて実施、紹介していただければ幸いです。研究機関の公開は、それに協力する学生たちの教育・普及活動への興味関心の喚起や、プレゼンテーション技術の向上といった面でも効果があります。

施設や資料の公開にあたっては、以下の展開もご検討ください。

- ・ 公認イベントにする
- ・ 講演などの際に、世界天文年の紹介映像（トレーラー）の上映などを行う。
- ・ 研究室の紹介と関連付けて、世界天文年の意義を紹介する。（例えば、ガリレオからの天文学発展と現在の研究内容との繋がりが地球環境、宇宙と生命との繋がりに触れる、といった例があります）

ステップ4 一般向けの公開講座を開催する

天文台設備を有している場合などは、世界天文年に関連したイベントと位置づけて一般公開・公開講座（天体観望会など）を実施されてはいかがでしょうか。

専門的な研究内容が、地域の研究機関で行われることを一般に広く紹介できるきっかけとなるとともに、世界天文年2009のイベントの一環とすることで、話題性も高まることでしょう。

新たに公開講座を開催する際には、地域への広報も大切な要素です。また研究機関の内部は一般の方にはわかりにくい構造をしていますので、会場への順路などの案内を掲示することも大切です。



研究に用いている望遠鏡で宇宙を見る機会は、世界天文年の思い出深い体験となるでしょう。写真は愛知教育大学天文台。



プレゼンテーションに使えるパワーポイントのテンプレートも公開されています（日本語版は公開準備中）。公認イベントであればご自由に、それ以外では公式ロゴマーク同様、ガイドラインに従ってお使いください。



単なる公開でなく、研究内容の一端を紹介する講座を開催することで、市民がより理解を深めるきっかけとなり、研究機関にとっても地域へのアプローチとしてよい機会となるでしょう。